

## 令和3年産米の稲作反省と次年度対策

### 1 令和3年産米の作柄と品質の概況

阿賀野市の令和3年産の作柄は、早生品種はほぼ平年並の収量となり品質は地域による差はありましたが、一定の品質を確保しました。コシヒカ리는8月中～9月上旬の日照不足等による登熟不良と、登熟後期の乾燥や栄養不足などにより層米が多くなり、収量はやや不良となりました。品質は、高温登熟が回避されたことなどから1等級比率は高く良質米が生産されました。昨年多発生したカメムシ類の斑点米による格落ちは、割れ籾の発生が少なかったことや8月の天候不良、共同防除や個人防除効果の向上等により大きく減少しました。一方で新之助は、登熟期後半の高温や強風・乾燥等により胴割米が多発生し品質が劣りました。

表1 作柄概況と1等級比率(主食用米 10月末現在)

作況	品質	1等級比率(%)		
		区分	コシヒカリ	こしいぶき
下越北	96 (やや不良)	J A北蒲みなみ水原	90.5	92.0
		J A北蒲みなみ安田	74.8	94.3
新潟県	96 (やや不良)	J A北蒲みなみ京ヶ瀬	92.5	89.4
		J Aささかみ	82.3	64.2
全国	101 (平年並)	阿賀野市全体	83.7	81.5

### 2 収量構成要素から見た作柄や品質に影響した主な事項

**穂数**  
早生:並  
中生:並～やや多  
晩生:並～やや多

**一穂粒数**  
早生:やや少  
中生:並～やや多  
晩生:並～やや多

**m<sup>2</sup>粒数**  
早生:やや少～並  
中生:並～やや多  
晩生:並～やや多

**登熟**  
早生:並  
中生:不良  
晩生:不良

**千粒重**  
早生:やや大  
中生:並～やや小  
晩生:やや小

**品質**  
早生:並～やや良  
中生:並～やや良  
晩生:不良

- ・苗質:並～やや良  
高温障害(ヤケ苗)や病害(馬鹿苗等)発生少。
- ・活着:並～やや不良  
田植え時の天候不良、除草剤による葉害で活着、初期分けつ発生やや不良。
- ・初期生育:やや不良～並  
下位分けつの発生悪く莖数確保遅れる。
- ・ワキ、アオミドロの発生:並  
早めの落水対応等で被害軽減、中干しも適期実施増加。
- ・梅雨明け早く生育進む  
6月以降天候安定、高温・多照で生育進む。
- ・穂肥は適期に実施、基準量施用  
・基肥一発肥料の追加穂肥実施率は「並」、後期栄養不足は場やや多。
- ・梅雨明け早く(7/13)生育進む  
・7月中旬～8月上旬は高温多照で生育順調
- ・8月9日台風13号に伴うフェーン発生、コシヒカリ等に着色籾発生。
- ・8月10日～9月上旬まで低温・日照不足続き中晩生品種登熟不良。
- ・9月の降雨少なく中晩生品種の登熟不良助長。  
・9月20日～22日高温・乾燥で晩生品種中心に胴割れ米多発生。
- ・8月の天候不良や適期防除でカメムシ類による斑点米発生少。

#### 問題となった事項

- ・土作り資材の投入伸び悩み
- ・除草剤使用の注意不足(ほ場の均平、田植え同時処理後の水管理、アオミドロ対策)

- ・中干し後の雑草多発生(ヒエ、クサネム等)

- ・新之助のいもち病対策及び後期水管理対策

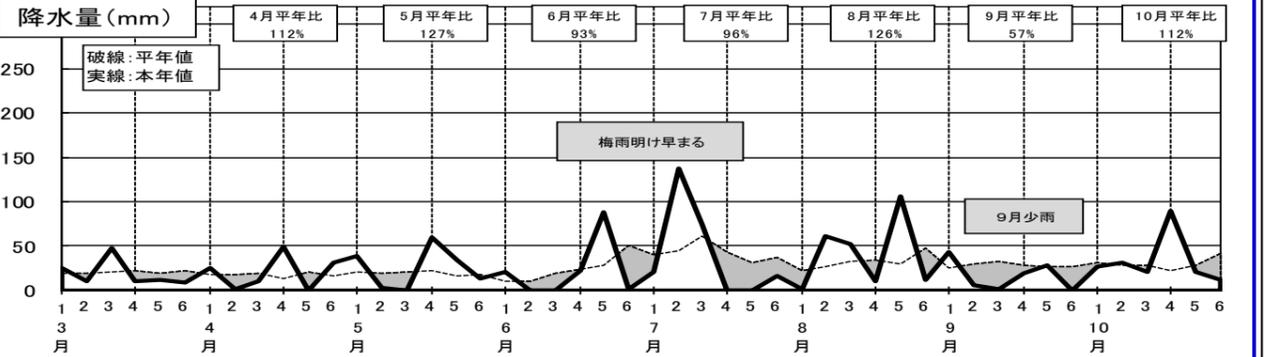
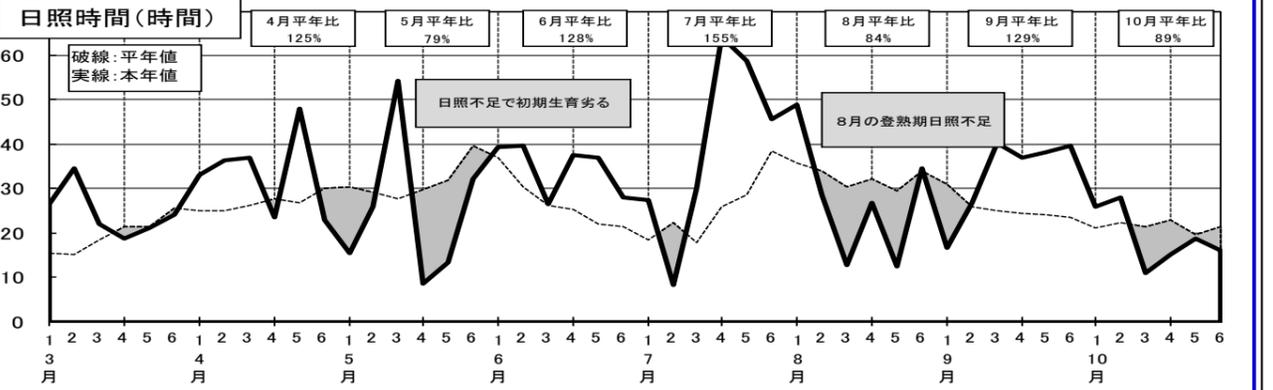
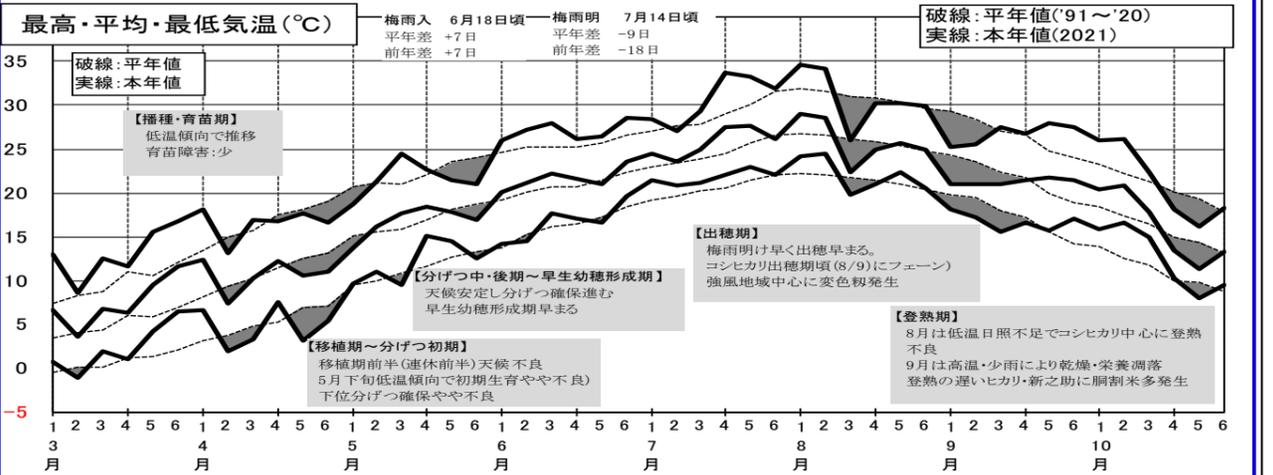
気象変動(高温・強風等)に対する緩衝力の低下(新之助等に胴割米多発生)

カメムシ類による斑点米防止対策の継続(早生・コシヒカリ)

### 3 稲作期間の気象図

令和3年度稲作期間気象図

観測場所:新発田市農業サポートセンター(新発田市下羽津)



### 4 次年度に向けた課題と対策「気象変動に負けない稲づくり」

- 1 初期生育を促進し良質莖を安定確保
  - ・丁寧な耕耘と均平な代かき
  - ・健苗の育成と適期移植
- 2 災害(高温・強風)に備えた適正な施肥(栄養補給)と土づくり
  - ・田植え後の水管理徹底(除草剤の葉害防止等)
  - ・気象変動に負けない栄養供給(ケイ酸質資材や堆肥等の施用や後期栄養(追加穂肥)の確保)
- 3 カメムシ防除等の徹底
  - ・共同防除+個人防除(適期防除)の徹底(早生だけでなく、多発生地域はコシヒカリでも実践)
  - ・ほ場内及びほ場周辺のイネ科雑草の草刈り徹底

※作況指数:北陸農政局  
11月9日発表10/25現在